

藤屋 侃士
(下松市幸ケ丘)

594

終活の準備を始める

予期せぬ出来事④

78歳での手術。今回ほど強い。
ど、自分の死を自覚した
ことはない。

そして考えたこと。無
事に退院出来たら「終活」
の準備をしようというこ
とだ。

最近「終活」という言
葉が目につく。「自分の
人生の終末のために活動
する」。

今住む家を建ててから
50年近くになり、この間
一度も転居したことがな
い。その上「もったいない」

を信条としてきたので、
日常余り使用しないもの
もたくさんある。3人の
子供も巣立ちし、必要な
ものだけを持って出たの
で、この傾向はますます

のため、イギリス、コンゴ、
ラオスなどに毎年出掛け
るからである。

以前はツアー旅行が中
心だったが、最近は長女
のガイドでイギリス、ド
イツのフランクフルト(結
婚50年の祝い)などに連
れていってもらう。何と
言っても英語などがペラ
ペラなのは我が娘ながら
うらやましい。

いつの間にか、旅行か
ばんも四つになつてい
る。最初に名前入りで作つ
てもらったのは未練も
あつたが、終活の一環で
処分した。何しろ最近の
旅行かばんはアルミ製で
実に軽い。

妻は自分が歩くだけで
精いっぱいなので、私が
持つかばんにすべてを入
れる。暑い所から寒い所
に行く場合、どうしても
荷物が増える。長女の払
い下げの大型アルミかば
んと2、3泊用の小型を
残し、すべて処分する。
とにかく「シンプル・
イズ・ベスト」で生活の
価値観を思い切つて変え
ることに
する。とは
いえ、50年
近く住ん
でいると、
自分でも
驚くほど
のものが
ある。
親しく
している
韓国の母
娘の生活

一方、自分の家に目を
転じると、コーヒーカー
プだけで50客以上ある。
イギリス製のもの、フラ
ンス製のもの、ドイツ製
のもの、それぞれに買い
求めた時の思い出が詰
まつており、これだけは
財産として子供に残して
も苦情は出ないだろうと
勝手に思い、今もサイド
ボードの上に飾つてある。
しかしそのほかの食器類
は思い切つて多くを処分
した。

今も妻は1階の衣装タ
ンスの中から、昨年着な
かつたもの以外「可燃性
ゴミ」に捨てるため準備
している。

予期せぬ自分の死はい
つ本当に訪れるかわから
ない。今回の西日本豪雨
災害のように、突然すべ
てが流され、命まで失つ
た人が、不明者を含め2
30人という数字には胸
がしめつけられる。

これらの天災を除け
ば、自分は予期せぬ出来
事と思つているが、冷静
に自分の生活を見ても
と、意外にその兆しがあ
る。

せめて死を迎えた時ぐ
らい、周囲や家族に迷惑
をかけないようにと、体
調不十分の中で終活の準
備を進めている毎日であ
る。



長く愛用した旅行かばんも処分する

長く愛用した旅行かばんも処分する